

カワソト型 木材コーディネーターのすすめ

～ブナの森づくりプロジェクトを核にした、未来の木材需要拡大への取り組み事例～



melon communications 岩崎 唱

melon
communications

May I introduce myself



岩崎 唱、唱は“となお”と読みます。

東京都豊島区椎名町生まれ（あのトキワ荘のわりと近く）

埼玉県川越市育ち、その後、東京都板橋区赤塚に引っ越し

東京都板橋区の私立城北高校に入学、2年浪人して日本大学理工学部電気工学科へ、

卒論は「低気圧下における不活性ガスの超高周波放電での定在縞現象の研究」

卒業して入社したTUC（テレビマンユニオン コマーシャル）を10日間で辞め

バイトをしながら宣伝会議コピーライター養成講座に通い久保田孝賞を受賞

その後（経験3年と偽って）広告代理店の日放到コピーライターとして入社

4年ほど勤めもっとシゲキが欲しくなり広告制作会社のC.C.レマンへ入社、HONDAを担当

さらに東急エージェンシーインターナショナルに転職しSONYを担当

外資系（レオ・バーネット）に入社するつもりで退職するが

私を引っ張ってくれたクリエイティブディレクターが本国と大喧嘩をしてクビになり宙に浮く

そのうち読売広告社からお声がかかりなんとなく10年ほど過ごす

読売ではSUBARU、EPSON、ASTEL東京、Prudential生命、昭和産業、Softbankなどを担当

そろそろ勤め人がしんどくなったので退職し、知人の音楽系マネージメント&制作会社に一時席を置く

いろいろあってフリーランスに、melon communicationsという屋号を名乗る

ひょんなことから「緑の雇用」の宣伝PRの仕事に関わり“林業”の世界を知る

林業、森林、木材の奥深さに惹かれるようになり

これまたひょんなことから森林ボランティアNPOを手伝うことになり

ボランティアを率いて植樹、下刈り、雑木伐採などの活動を行い

森林、林業の課題は、川上だけでは解決できないことを思い知る

そんなときに木材コーディネーター基礎講座をことを知るが大阪開催なので見送る

2018年に木材コーディネーター基礎講座が東京で開催されたので迷わず受講する

2023年に講座同期の長野さんが起業して（株）モリアゲを立ち上げたのを機に

「モリアゲを盛り上げる」勝手連として森林結社モリアゲ団を密かに結成

モリアゲ団の主たる活動の長野県木島平村 カヤの平高原でのブナ植樹活動は

NPO時代から含めると12年間携わっている

木材サプライチェーン内には
できないことに積極的に取り組み
縁の下のカ持ちになろう



← カワソト君

カワソト木材コーディネーターの課題解決

ブナ植樹活動をコアにして
森好き、木好きの人を増やす

人、地域、企業、行政、
木材コーディネーターの“つなぎ役”に

森が好き、木が好き、をみんなの“あたりまえ”に！
— Common Sense 化 —

将来の木材需要促進につなげる



はじめに…森林結社モリアゲ団とは



Design by melon communications

2022年に木材コーディネーター基礎講座で同期だった
農林水産省（受講当時は林野庁）の長野麻子さんが早期退官され
日本の森を盛り上げる会社＝モリアゲを立ち上げたときに、
主に木材コーディネーター基礎講座（東京）の受講生を中心に
モリアゲを盛り上げるためになんとなく設立された勝手連的な“ゆるやかな連携の集合体”です。
NPOではないし、任意団体ですらありません。
主にカヤの平高原牧場での（株）モリアゲさん主催の
ブナ森づくりツアーの企画運営サポートや
モリアゲ・シンポジウムの企画運営、オリジナルグッズの企画デザインなどをしています。
（株）モリアゲの活動を社外から応援、支援する“森の秘密結社”です。

岩崎の隠れ蓑的ユウレイ組織（団体）ともいえます。

はじめに…カヤの平高原牧場 ブナ植樹プロジェクトとは



2025年4月
第1期植栽エリアの
一部（約1ha）を
国へ返地

牛乳消費量の減少、酪農家の高齢化などにより使われない牧草地増加

2011年 小山泰弘（農学博士）が現地調査し、林縁部の実生のブナ稚樹を移植する植樹方法を考案



1955

2011 2012 2013 → 2017

2019 2023 → 2025 →

木島平村誕生

国有林を借り受け牧場を造成。酪農を村の基幹産業の一つに。

村は使っていない牧草地の返却を考えるが、それには牧草地を元の森に戻す必要がある

第1期植栽エリア

2011～2017 NPOが主体となり植樹を完了

第2期植栽エリア

2019、2022年に有志と村民が植樹開始

森林結社モリアゲ団の森

2023年からモリアゲの企業の森として関係者、村民、企業の手で植樹を開始

エコロジー&エコノミーな植樹方法



カワソト木材コーディネーターにできることって何かな？



- 木材サプライチェーンを俯瞰できるカワソトの立ち位置だからできることを！
- カワソトの人間が持っているスキルやノウハウを生かす！



- 本来の木材コーディネーターの活動の地固めをできないか？

サプライチェーンは、バリューチェーンとも呼ばれますが（個人的な意見ですが）まだ、バリューを生み出すチェーンになっていないので、あえてサプライチェーンと呼びます。サプライチェーン（供給網）をバリューチェーン（価値の連鎖）にすることが重要と考えています。

需要（受注）があってはじめてビジネスは成り立ちます。

はたして供給（サプライチェーン）側の課題を解決するだけで十分でしょうか？

日本は少子高齢化で人口減は必須。それに従い受注数も減少します。

受注を待っているだけでは尻つぼみに…

需要をいま以上に拡大・創出することも必要では？

需要 = 消費者が商品やサービスを購入したいという欲求

でも、どうやって



参考…はたして世の中の人々は、本当に“森”や“木材”を求めているの？

新築戸建て住宅はほとんどが木造になり、非住宅の木質・木造化も増えはじめてきています。ある調査では50%の人が森に関心があると答え、SDGs、ゼロカーボンなど木材にとって追い風が吹いています。しかし、実際に街に出てみると「本当にそうなのかなあ」と疑問に感じることがあります。

森や木材へのことをちゃんと理解して、使おうという行動に出ることができる人はまだ少ないかも…

Good DesignとWood Designの認知度について調べてみました。



グッドデザインマーク

何だか知っている…**59%**

見たことがある…**20%**

全国の15歳以上男女 2,100名
2019年度JDP調べ



JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2025

ウッドデザインマーク

何だか知っている…**31%**

見たことがある…**18%**

ウッドデザイン賞2024の受賞作品展示会場来場者 1,000名
一般社団法人日本ウッドデザイン協会2024年

この二つを比較すること自体、無理がありますが
何を示したかったかという「森や木に対する認知・理解はまだまだ十分ではない」ということです。

参考…過去1年間に森林を訪れたのは3人に1人

森林総合研究所が実施した東京23区の住民に対するアンケート調査では森林に関心があると答えた人は半数以上（**51.9%**）ですが過去1年間に森林を訪れた人は**35.6%**（**3人に1人**）にとどまり「関心がある」と「訪れる（行動に移す）」人にギャップがありました。

そこで森林訪問に結びつく要因を調査したところ

- ・ 旅先での体験
- ・ 幼少期の自然体験の豊かさ
- ・ よい景色を見ながらの散歩の習慣などが

森へ行くという行動に影響を与えていることがわかりました。



人々に森への関心を高め、意識変容、行動変容させるには森との接点や体験がとても重要

森好き、木好きにさせる第1歩

森林総合研究所 東京23区の住民で過去1年間に森林を訪れたのは3人に1人
<https://www.ffpri.go.jp/press/2025/20250729/index.html>



参考…社会を動かす1/4の法則

ペンシルベニア大学のデーモン・セントーラ教授らによる2018年の研究で提唱されたもの。ある集団の中で約25%の人々の行動や考え方が変わると、それが転換点となり社会全体の規範が一気に塗り替えられるという社会力学の法則。

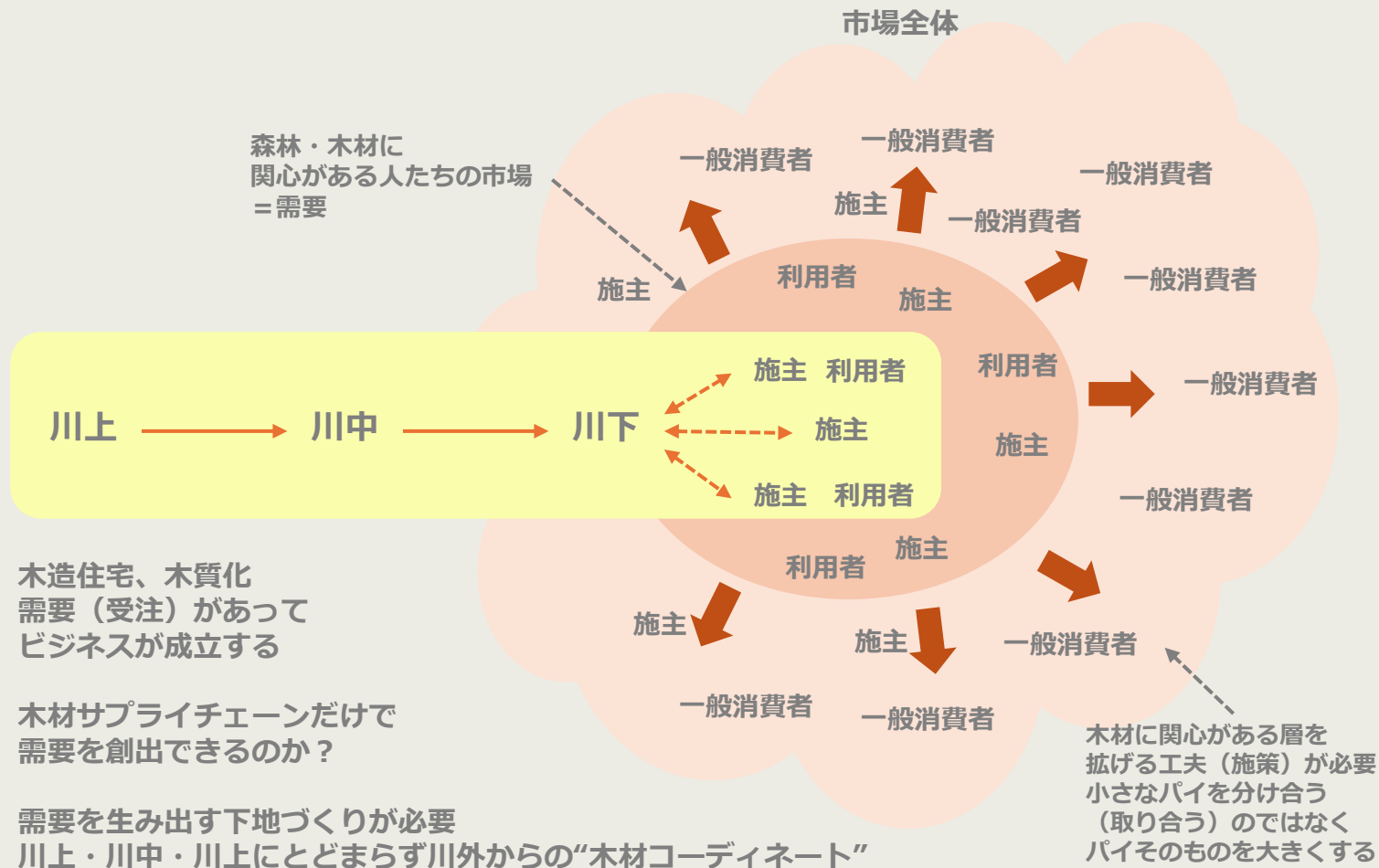
集団の多数派が特定の慣習に従っていても**（強い意志を持った）少数派が全体の約25%**に達すると、残りの75%の意見や行動を劇的に変化させる力が生まれます。25%に達するまでは変化は緩やかですが、このラインを超えた瞬間に変化のスピードが加速し、新しい「当たり前」が定着します。



いくつかのデータでは森に関心がある人が増えているが…

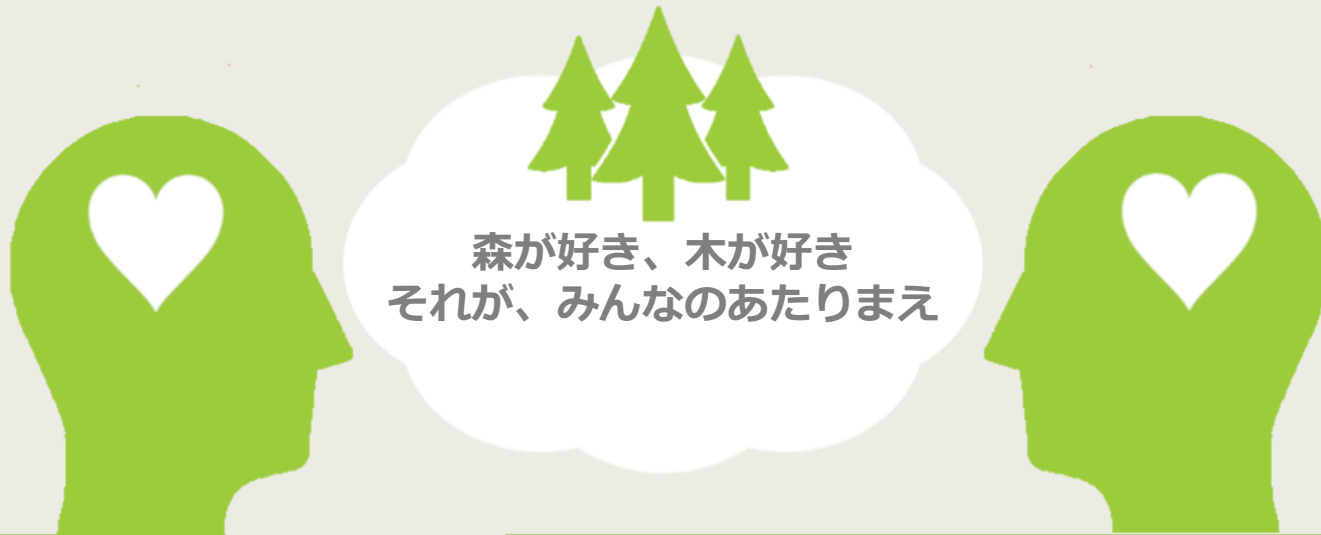
**森好き・木好きは、
まだ「強い意志を持った」少数派に
なり得ていないのでは？**

木材サプライチェーンと市場を見直す



森を愛す、木を使うを「みんなのあたりまえ」にしよう！

市場を構成するすべての人々が、
「森っていいね」「木材っていいね」「森って大切だね」「木材って大切だね」
という気持ち **Common Sense** を持てる社会をつくる



森林結社モリアゲ団のブナの森づくりの概要

長野県下高井郡木島平村 カヤの平高原牧場（村営）の牧草地跡地に
林縁部から掘り採ったブナ稚樹を移植し、元のブナの森に戻し国有林に返す活動
（株）モリアゲが木島平村と「森林（もり）の里親」協定を締結し
2023年よりモリアゲ関係者、村民、市民、企業と協力しながら
年に2回の植樹活動を展開中！

- ・ 村の負の遺産（借地料）の減額
- ・ 農業が盛んな木島平村の水源かん養
- ・ 生物多様性への貢献
- ・ 街の人と村の人の交流の場として
- ・ 森のセラピー効果で心と身体の健康管理
- ・ 森育木育のフィールドとして活用
- ・ 将来的にはワーケーションや森林ツーリズムへ…

健康増進



水源涵養



国土保全



炭素蓄積



森は海の恋人



生物多様性



パートナーシップ



4つの核となるプロジェクト

森づくり



ブナ植樹計画の立案
植樹ツアーの企画・運営
役場との連絡・調整



デザイン

木育プロジェクトの
企画・運営
木材調達
役場との連絡・調整



関連グッズの
企画・制作、販売
News Release
Annual Reportの制作

モリアゲ・シンポジウム
の企画・運営
役場、各企業
との連絡・調整

森育木育



ネットワーキング 14

ブナ植樹ツアーの企画・運営 ——森づくりは、人づくり



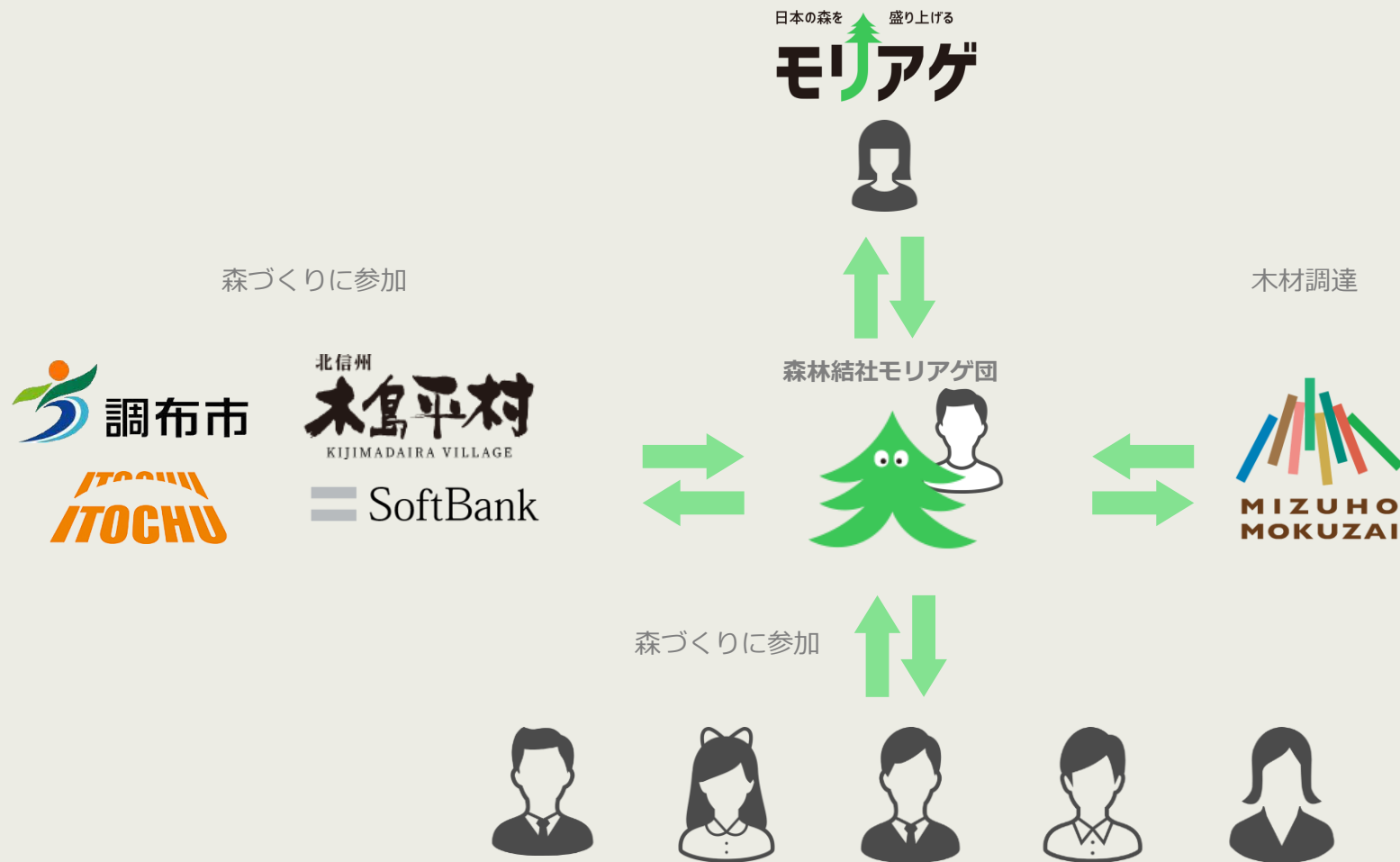
森育木育イベントの企画・運営 ―― 未来の森好き・木好きを育てる



モリアゲ・シンポジウムの企画・運営 ― 仲間づくり



プロジェクトに関わる人々 一般市民から村民、行政、企業まで



プロジェクトの成果

2023年植樹活動（夏・秋）	
参加者	135名
植樹面積	0.17ha
植樹本数	1,900本

2024年植樹活動（夏・秋）	
参加者	178名
植樹面積	0.2ha
植樹本数	1,130本

2024年 木育プロジェクト	
参加者	20名

2024年 シンポジウム	
参加者	60名

2025年植樹活動（夏・秋）	
参加者	120名
植樹面積	0.13ha
植樹本数	820本

2025年 木育プロジェクト	
参加者	19名

2025年 シンポジウム	
参加者	36名
	※23名

※オプション森林ツアー

広葉樹林見学会（5月・11月）	
参加者	45名



3年間の成果

参加者	636名
植樹面積	0.5ha
植樹本数	3,850本

参加者数は、スタッフを含む延べ人数

牧草地を森に還し、関係人口を増やし、地域の活性化にもつなげています。

これからの展開

ブナ植樹プロジェクトを通じて…

「森好き」
「木好き」を
地道に増やす

活動で育んだ
スキルやノウハウ
を広める

インタープリター、エヴァンジェリストなど様々な呼称がありますが、
将来の木材需要を支える「森好き」「木好き」の人たちを増殖させる活動によって
木材需要のシーズを増やしニーズに育てていきます。

「木材サプライチェーン」を「木材バリューチェーン」として森と街をつなぎ、
そこに価値を生みだし未来の健全で持続的な森づくりを目指していきます。

参考事例…飛騨の木材コーディネーター（野村さん）とのコラボ（2025年5月、11月）

飛騨広葉樹林施業見学会

飛騨の木材コーディネーター 林業家の野村雅明さんとの
コラボレーション企画。

野村さんがこれから将来僕施業を行うことを考えている広葉
樹林を長野県林業総合センターの小山泰弘（農学博士）山主
さんと様々なクラスターの方々（林業家、木材コーディネ
ーター、行政、建築家、その他）で見て回り、将来どうい
う森にしたいか、どうい
う森ができるかを森の中
で話し合い、ワークショップ
形式でそれぞれが将来に
残したい木を選び、6か
月後に再び現地を訪れ
答え合わせ？をしました。



参考事例…あるプロジェクトに、たまたまたくさんの木材コーディネーターが関わっていました（2025年11月）

偶然、木材コーディネーターがたくさん関わった古民家改修 複合施設「板橋ととと」の案件。
板橋区小豆沢の旧蓮沼邸を地域の人たちが集える複合施設に改修。第1弾として東ノ蔵に本屋とカフェがオープン！
そこで使う家具を乃村工藝社さんの「手ザイン」チームが西川材を使用して制作しました。

- 梅田晶子さん（乃村工藝社）…もりまちドア（産地体験会）の企画運営や「手ザイン」プロジェクトの企画委運営
- 井上淳治さん、井上峻太郎さん（創林）、若林知伸さん（西川ラフターズ）…産地体験会や手ザインのサポート、木材調達等
- 真銅恭子さん（きよたけ建築工房）…改修工事
- 磯野由佳さん（イソノ設計室一級建築士事務所）…構造計算（当日は不参加）
- 岩崎 唱（melon communications）…取材記事制作



プロジェクトの収益化への展望

活動を持続化させるには収益化が不可欠です。

しかし、人（森好き・木好き）を育てるのは、森を育てるのと同じで時間がかかりその成果が見えにくくマネタイズは簡単ではありません。
カワソト木材コーディネーターとしての活動がビジネスとして成立する土壌を育成するためにも地道に活動を積み重ね、情報を発信していくことが大切だと思っています。
具体的には企業や行政との連携を深めていくことだと考えています。

今回、初めて調布市民さんの植樹活動サポートで日当ができました。（w）

カワソト木材コーディネーターは川上・川中・川外のプレーヤーにはなれませんが様々な木材コーディネーターのつなぎ手にはなれます。

言い換えれば、木材コーディネートという活動（料理）の「スパイス」となって味を引き立てて行きたいと思います。

また、他の木材コーディネーターとも連携を深めさまざまなコラボレーションを展開できればと考えます。

Spice of Wood Life



To Be Continued

事態が動き出すには
一定の臨界質量が
集まらなきゃならない



エヴァン・ダーラ 「失われたスクラップブック」より

melon
communications

